

小さな発信、そこからすべてが始まる

グローバル化が進むにつれて、英語での発信能力が重要になっています。

あなたの考えを、英語で発表しませんか？



活水学院 創立者
エリザベス・ラッセル



*The Tenth Kwassui Women's University
Elizabeth Russell Cup English Speech Contest*

第10回 活水女子大学 エリザベス・ラッセル杯 英語スピーチコンテスト

【テーマ】「グローバル社会の一員として考える」

国連アカデミック・インパクト(UNAI)の10原則のうち、以下の基本原則のいずれかに関連する内容
原則 2: 探求、意見、演説の自由を認める。
原則 3: 性別、人種、宗教、民族を問わず、全てのの人に教育の機会を提供する。
原則 6: 人々の国際市民としての意識を高める。
原則 7: 平和、紛争解決を促す。
原則 9: 持続可能性を促進する。
原則10: 異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く。

【形式】6分以上8分未満のスピーチ(既発表可)

【応募資格】日本の4年制大学・短期大学に所属する学生で、
英語を非母語・非公用語とする者(性別不問)
予備審査・本選ともに団体ごとの人数制限なし

【予備審査】原稿、録音による審査
テーマに沿わない内容は事前審査で却下させていただきます。

【原稿、録音の送付締切】8月17日(水) 必着

【本選日時】2022年11月6日(日) 13:00~17:00

【本選出場者】予備審査で選出された10名

【会場】長崎市東山手町1-50
活水女子大学東山手キャンパス4号館2階大会議室

【賞品】図書カード(優勝3万円、準優勝2万円、3位1万円、4位以下各1千円)

【応募方法】次の3点を「データ便」で送付のこと

- 必要事項を記入した申込み用紙
*申込み用紙は活水女子大学ホームページからダウンロード
- スピーチ原稿
- 応募者本人によるスピーチ録音

「データ便」

- 「データ便」のホームページ(<https://www.datadeliver.net/>)にアクセス
- データを全て画面にドロップし、「利用規約に同意します」にチェックマークを入れた上で「ファイルをアップロード」をクリックする。「有効期限」は3日に設定
- 「宛先入力画面へ」をクリック
- 「受信者名」と「(受信者名の)Email」を以下の通り設定
受信者名: 狩野暁洋 Email: akikano@kwassui.ac.jp
- スピーチ録音ファイル形式はwav, mp3, wmaのいずれかを使用



締切日:8月17日(水) (必着)

予備審査の結果は、9月5日(月)までにメールでご連絡いたします。尚、申込みの際、ご提出いただいた3点は返却いたしませんので、予めご了承ください。

後援団体/ 長崎県教育委員会、長崎新聞社、朝日新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、NHK長崎放送局、NBC長崎放送、KTNテレビ長崎、NCC長崎文化放送、NIB長崎国際テレビ、エフエム長崎、長崎日米協会、長崎日英協会

主催  **活水女子大学**

共催 活水学院

問合せ先 **TEL:(095)822-4107 内線367**
E-mail:akikano@kwassui.ac.jp

新型コロナウイルスの感染状況により、オンラインでの開催となる場合があります。

The Tenth Kwassui Women's University Elizabeth Russell Cup English Speech Contest

趣意書

(第 10 回活水女子大学 エリザベス・ラッセル杯 英語スピーチコンテスト)

今をさかのぼること 143 年前の明治 12 年、日本が世界の中で新しい位置を切り開こうと模索していた頃、アメリカの宣教師エリザベス・ラッセルが長崎の港に上陸した。エリザベス・ラッセルの目的は、キリスト教にもとづく高尚な精神と知性を育て、将来自立し得る実力を養うために、最高の教育を日本の女子に授けたいということであった。長崎到着の早くも 1 週間後、ラッセル女史は学校開設を企てた。訪れたばかりの地で学生がすぐに集まるだろうかと不安がなくなかった。当時、女子には学問は不要だと考えられていたからである。しかし開校予定の日、1 人の若い日本女性が教えを請いにラッセル女史を訪れた。ラッセル女史と最初の学生のこの出会いは、その後の日本の女子教育を発展させ、女性たちの視野を広げ、人生をも変えていく出発点となった。こうして、泉から滾々と湧き出で、この世を潤し新たに作る、活きた水の流れる活水学院が誕生したのである。授業を英語で行うという、それまでにない大胆な試みに対し、無理解な人々による妨害等に遭遇したが、ラッセル女史たちはいかなる困難にも挫けず、よりよい教育をめざして前進していった。開校 4 年後にはアメリカの女子大学と同じカリキュラムが採用され、国語を除くほとんどの科目が英語で教えられるという高度な英語教育が、長崎の地に実現した。

今日、社会に目を向けると、グローバル化が進行する中、日本人が自らの立場や意見を明快かつ論理的に表現する能力がますます必要とされてきている。とりわけ英語での発信力の向上を求める声は、日々高まっている。活水女子大学では、明治初期に最高水準の教育をめざして邁進した創立者エリザベス・ラッセルの思いを受け継ぎ、英語教育の伝統を生かして、彼女の名前を冠した英語スピーチコンテストの開催を決めた。このコンテストが、大学生や短大生に英語で発信する場を提供し、明日を担う彼や彼女たちの英語発信能力の向上に寄与してほしいとの願いからである。

エリザベス・ラッセル杯は、2013 年に第 1 回目を開催して以来、日本全国の大学から多くの学生たちが応募して、レベルの高いスピーチを披露してきた。多様な地域から集まった学生たちが英語での表現力を競い合い、お互いの交流を深める有意義な場となっている。

2022 年度大会のテーマは「グローバル社会の一員として考える」である。本学が参加する国連アカデミック・インパクト(UNAI)の原則にもとづき、探求、意見、演説の自由や教育の機会、国際市民としての意識、平和、持続可能性、異文化間の対話や相互理解などのテーマに関するスピーチを募集する。若い人々がグローバル社会の一員として考えを深め、英語のスピーチに練り上げて、大勢の人々の前で語る機会としたい。